

2021 年度腐食防食学会 受賞者選定経過報告

表彰選考委員会
委員長 藤本慎司

本会では、腐食防食の分野における学術および技術の進歩発展に顕著な貢献をした会員に対して学会賞、腐食防食の分野における学術の進歩発展に顕著な功績をあげている者を講師として、会員の知識と興味を高める権威ある講演とする岡本剛記念講演賞、腐食防食の分野における学術の進歩発展に功労のある会員に対して学術功労賞、腐食防食の分野における技術の進歩発展に功労のある会員に対して技術功労賞、優秀な学術論文に対して論文賞、優れた技術に対して技術賞、優秀な若手の会員に対して進歩賞、加えて本部ならびに支部の事業発展に貢献した会員に対して功績賞、貢献賞を贈り表彰してきている。2021 年度で、学会賞は第 24 回(含む協会賞)、岡本剛記念講演は第 25 回、学術功労賞および技術功労賞は第 6 回、論文賞と技術賞は第 42 回、進歩賞は第 35 回となる。

本会の規程に従い、表彰選考委員会内に、学会賞選考委員会(委員長 藤本慎司)、岡本剛記念講演講師選考委員会(委員長 西方 篤)、学術功労賞選考委員会(委員長 押川 渡)、技術功労賞選考委員会(委員長 細谷敬三)、論文賞選考委員会(委員長 春名 匠)、技術賞選考委員会(委員長 野田和彦)、進歩賞選考委員会(委員長 上田幹人)を設け、功績賞、貢献賞については総務会にて、2020 年 10 月から 2021 年 1 月にわたって慎重に審査を行ってきた。その結果、推薦された候補者から、学会賞 2 名、岡本剛記念講演賞 1 名、学術功労賞 1 名、技術功労賞 2 名、論文賞 1 件、技術賞 2 件、進歩賞 1 名、功績賞 2 名及び貢献賞 4 名が選考された。

<学会賞①>

石油・天然ガス関連プラントの防食設計に関わる研究開発と学会運営への貢献

細谷敬三(日揮グローバル株式会社)



細谷敬三

【略歴】

細谷敬三君は、1980 年 3 月に東北大学工学部金属工学科を卒業、1982 年 3 月に同大学大学院工学研究科金属工学専攻を修了後、同年 4 月に日揮株式会社に入社、2008 年に同社チーフエンジニア(プラント材料)、2009 年に EN テクノロジーセンター部長、2014 年に同社理事・プロセステクノロジー本部本部長代行を経て、現在は日揮グローバル株式会社でフェローとして勤務。その間、1992 年に東北大学から博士(工学)を授与されている。本会では理事、副会長、監事を歴任し、本会の国際化に大きな貢献してきた。

【業績】

細谷敬三君は、一貫して石油・天然ガス関連プラントの防食設計に関わる研究開発に取り組み、ポリチオン酸応力腐食割れおよび酸性ガス洗浄装置の応力腐食割れの機構、防止方法および新たな試験法を提案し、さらに国内鉄鋼会社が開発した Super Martensitic SS(13Cr)鋼管の溶接技術を確立し、天然ガス生産設備に世界でも先駆的に適用するなどの成果を上げた。これらの成果は、当該産業界において工学的応用実績を上げると共に、当会学会誌、講演会、セミナー等で積極的に発表され、技術の普及と人材育成にも生かされている。当会においては、理事、副会長、監事の要職を歴任し、各種委員会の幹事、主査、委員なども務め学会運営への貢献も大である。特に、当会の国際化の活動では、NACE International との関係強化に尽力し NACE East Asia Pacific Area Conference(2019)の共同開催を成功させ、学会の存在感をアジア地域に示した。

<学会賞②>

金属材料の腐食・防食に関する研究とその普及

篠原 正(元物質・材料研究機構)



篠原 正

【略歴】

篠原 正君は、昭和60年3月東京大学大学院工学系研究科博士課程修了、昭和60年11月東京大学工学部金属材料学科助手、昭和63年2月同講師、平成4年6月同学部金属工学科助教授、平成14年4月(独)物質・材料研究機構材料研究所 ディレクター、平成21年4月同材料信頼性センター グループリーダー、等を経て平成27年3月同機構定年退職、平成27年4月同機構 特別研究員、令和2年3月同機構退職、現在に至る。令和1年1月腐食防食学会 腐食防食専門士取得。平成4年5月、平成13年6月、平成17年5月、腐食防食学会論文賞、平成26年5月腐食防食学会 岡本剛記念講演賞を受賞。本会理事をはじめ、編集委員長、「腐食コスト調査委員会」委員長等を歴任。

【業績】

篠原 正君は、一貫して金属材料の腐食・防食に関する研究とその普及に従事してきた。なかでも、ステンレス鋼の局部腐食や大気腐食などの分野において、要定量化事象の計測手段の実現を通して、研究の進歩に貢献した。特に、隙間腐食部内部溶液の熱力学検討、ACMによる腐食環境評価・腐食予測、アジア地区における大気腐食の系統的考察などに優れた業績を残した。

岡本剛記念講演

金属材料の局部腐食現象の解明と高耐食化へのマイクロ電気化学的アプローチ

武藤 泉(東北大学 大学院工学研究科 知能デバイス材料学専攻)



武藤 泉

【略歴】

武藤 泉君は、昭和63年3月東北大学大学院工学研究科金属工学専攻博士課程前期2年の課程修了。同年4月新日本製鐵(株)入社、平成9年4月東北大学大学院工学研究科金属工学専攻博士課程後期3年の課程(社会人特別選抜)編入学、平成10年3月に同課程を修了。平成15年10月新日鐵住金ステンレス(株)に転籍、平成17年4月東北大学大学院工学研究科助教授、現在、東北大学大学院工学研究科教授。

平成9年5月腐食防食協会進歩賞、平成16年9月日本金属学会技術開発賞、平成22年5月腐食防食協会論文賞、平成26年3月日本鉄鋼協会西山記念賞、平成26年5月腐食防食学会技術賞、平成26年9月日本金属学会技術開発賞、平成29年3月日本鉄鋼協会学術貢献賞(里見賞)などを受賞。

【選考理由】

武藤 泉君は、長年にわたりステンレス鋼をはじめとする鉄鋼材料の腐食防食の研究に従事し多数の成果を上げてきた。特に電極面の直接観察法が可能なマイクロ電気化学的システムを開発し、MnS起点の孔食発生機構を解明し

たほか、金属表面の pH と塩化物イオン濃度分布の同時可視化技術など、独自の計測手法を開発して隙間腐食、応力腐食割れの機構解析を行っており腐食防食分野における学術の進歩発展に大きく貢献し、また、それらに関し本学会での発表、講演や論文執筆等を多岐に渡り行ってきた。これまでの一連の研究は、「腐食防食分野における学術の進歩発展に顕著な貢献をしている者を講師として、会員の知識と興味を高める権威ある講演とする。」との本賞の主旨と合致し、岡本剛記念講演をお願いすべき最適のものと考えらる。

<学術功労賞>

自己修復性防食コーティングの開発

矢吹彰広(広島大学)



矢吹彰広

【略歴】

矢吹彰広君は、平成2年3月広島大学大学院工学研究科移動現象工学専攻博士課程前期修了、平成2年5月～3年3月ドイツハノーバー大学客員研究員、平成3年4月東洋紡株式会社に入社。平成8年4月広島大学工学部に助手として赴任、平成11年11月博士(工学)学位取得(広島大学)。平成18年6月に同大学大学院工学研究科助教授、准教授を経て、平成25年4月に教授、令和2年4月1日に同大学大学院先進理工系科学研究科教授(大学院改組)に就任し現在に至る。平成12年2月～13年2月カナダトロント大学で文部科学省在外研究員。この間、エロージョン・コロージョン、自己修復性防食コーティングに関する研究に従事。本会では、2001年進歩賞を受賞。

【選考理由】

矢吹彰広君は、一貫として自己修復性防食コーティングに関する研究に従事してきた。金属材料の防食技術の一つである防食コーティングに欠陥が生じた場合、コーティング内部より腐食抑制剤が溶出し、欠陥部で耐食性を有する皮膜を形成することで腐食の拡大を防ぐことができる金属材料の防食ポリマーコーティングへの応用に尽力してきた。腐食抑制剤のコーティング中での保持方法、欠陥が生じた場合の効率的な放出の観点からセルロースナノファイバー、ゼオライト、高吸水性高分子、複合修復剤等各種の材料を用いて、自己修復性の向上に成功した。これらの研究成果は、防食コーティングの設計及び開発に対して学術的な面から著しく貢献している。

<技術功労賞①>

大気腐食環境における鉄鋼材料の腐食予測技術

鹿毛 勇 (JFE スチール株式会社)



鹿毛 勇

【略歴】

鹿毛 勇君は、平成5年3月東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻修士課程修了、同年4月日本鋼管株式会社に入社。総合材料技術研究所に配属され、表面処理鋼板、耐食鋼材などの鉄鋼材料の環境耐食性評価に関する研究・開発に従事。平成15年4月にJFEスチール株式会社となり、スチール研究所に所属。平成20年9月東京工業大学大学院材料工学専攻博士課程修了。平成28年4月に同社厚板セクター部に異動し、現在に至る。平成20年度、腐食防食学会技術賞を受賞。

【選考理由】

鹿毛 勇君は、建築、橋梁、自動車など様々な分野の大気環境における亜鉛メッキ鋼や耐候性鋼を含む鋼材の腐食実態を調査・解析し、長期の腐食予測技術および新しい耐食鋼の研究開発に従事し、その普及に尽力してきた。長年の研究・開発で得られた大気腐食予測技術および耐食鋼は、実構造物の設計、施工に数多く適用されており、社会インフラなどの長期供用に対する安全安心あるいはメンテナンス最小化に貢献した。

以上の成果は、腐食防食分野における技術の進歩発展および技術の普及による社会貢献は顕著なものがある。以上の理由により、本会技術功労賞を授与する。

<技術功労賞②>

大気腐食環境モニタリング法の開発とその普及

渡邊正満 (NTT アドバンステクノロジー株式会社)



渡邊正満

【略歴】

渡邊正満君は、1993年3月早稲田大学大学院理工学研究科資源及び材料工学専攻修了後、同年4月、日本電信電話株式会社に入社し、境界領域研究所に配属され、銀や銅を用いた大気腐食環境モニタリング法の開発等に従事。2004年7月から2015年6月まで、東日本電信電話株式会社において、各種通信インフラの腐食原因解明及び腐食対策立案に従事。2015年2月、早稲田大学より博士(工学)を授与される。2020年4月、NTTアドバンステクノロジー株式会社に入社、現在に至る。2007年5月進歩賞を受賞。2005～2008年度及び2015～2016年度編集委員、2006～2008年度コロージョンセミナー実行委員、2006年2月～2020年3月電気電子機器小委員会委員、2017～2018年度庶務理事を歴任。

【選考理由】

渡邊正満君は、電子材料で用いられる銀や銅の初期腐食現象を各種分析手法による腐生成物の解析により明らかに

し、それを利用した大気腐食環境のモニタリング法を開発した。開発したモニタリング法を通信機械室などの大気腐食性評価法として普及させ、優先的に維持管理を実施すべき地点を明確にすることにより通信機器のメンテナンスを高度化した。これにより、情報通信サービスの信頼性向上に大きく貢献した。

以上の成果は、腐食防食分野における技術の進歩発展および技術の普及による社会貢献は顕著なものがある。以上の理由により、本会技術功労賞を授与する。

<論文賞>

日本国内における鉄鋼や亜鉛の大気暴露試験データに対する ドーズレスポンス関数の適用性評価

材料と環境, 第 67 巻 10 号 416 頁~425 頁

大原 信(電力中央研究所) 小崎明郎(元電力中央研究所)
朱牟田善治(電力中央研究所) 村尾直人(北海道大学)



大原 信



小崎明郎



朱牟田善治



村尾直人

【略歴】

大原 信君は、平成 22 年 3 月東京農工大学大学院農学府物質循環環境科学専攻修士課程修了後、財団法人電力中央研究所(現：一般財団法人電力中央研究所)に入所し、送電設備に対する海塩粒子の影響評価(大気腐食や塩雪害)に従事し、現在に至る。令和元年 9 月北海道大学にて博士(工学)取得。

小崎明郎君は、昭和 50 年 3 月京都大学工学部金属系学科卒業、昭和 52 年 3 月東京大学大学院工学研究科修士課程金属工学専門課程修了。同年 4 月株式会社日本製鋼所に入社し、室蘭製作所圧延部を経て、昭和 54 年 4 月本社原子力技術部に配属。平成 3 年 4 月財団法人電力中央研究所(現：一般財団法人電力中央研究所)に移籍。我孫子研究所、地球工学研究所に配属され、平成 29 年 3 月退職。

朱牟田善治君は、平成 3 年 3 月東京都立大学大学院工学研究科土木工学専攻修士課程修了後、財団法人電力中央研究所(現：一般財団法人電力中央研究所)に入所し、我孫子研究所に配属。電力流通設備の災害リスク評価・レジリエンス強化および維持管理に関わる研究開発に従事し、現在に至る。

村尾直人君は、昭和 58 年 3 月北海道大学大学院工学研究科衛生工学専攻博士課程修了とともに、学位(工学博士)を取得。富士通エフ・アイ・ピー株式会社勤務、昭和 60 年 11 月北海道大学工学部助手、助教授、准教授を経て、令和 3 年 3 月退職。

【選考理由】

本論文は、日本国内における鉄鋼や亜鉛の大気腐食速度を環境因子に基づいて推定する手法として、ドーズレスポンス関数(DR 関数)の適用性を評価し、向上させたものである。種々の DR 関数の特徴が十分に吟味され、選定された ISO9223 の DR 関数の係数が国内の実測データに基づいて非線形回帰分析により決定され、国内の腐食速度データに対して推定精度が向上した DR 関数が提案された。この成果は社会資本の高経年化に対する維持管理の効率的運用に資する基礎的知見として高く評価される。以上の理由により、本論文を論文賞候補論文に決定した。

＜技術賞①＞

表面に凹凸構造を有する耐高温エロージョン・コロージョン溶射皮膜の開発

米田鈴枝(北海道立総合研究機構) 田中成奈(北海道大学大学院)
 古吟 孝(第一高周波工業株式会社) 石川栄司(荏原環境プラント株式会社)
 野口 学(株式会社荏原製作所) 林 重成(北海道大学大学院)



米田鈴枝



田中成奈



古吟 孝



石川栄司



野口 学



林 重成

【略歴】

米田鈴枝君は、2017年3月東京工業大学大学院理工学研究科材料工学専攻博士後期課程修了後、同4月に地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 工業試験場に入所し、金属材料の腐食や表面処理に関する研究開発に従事し、現在に至る。

田中成奈君は、2020年3月北海道大学工学部応用理工学専攻材料工学専攻卒業後、2020年4月、北海道大学大学院工学院材料科学専攻に入学し、先端高温材料工学研究室で、耐エロージョン・コロージョン特性に優れた合金開発に従事し、現在に至る。

古吟 孝君は、2000年3月九州大学大学院物質プロセス工学専攻修士課程修了後、2020年4月に第一高周波工業株式会社に入社し、技術部へ配属され、主に高周波誘導加熱を利用した表面処理技術開発に従事し、現在に至る。

石川栄司君は、1997年3月慶応義塾大学理工学部機械工学科 修士課程修了後、同年4月、株式会社荏原製作所に入社し、環境プラント事業本部に配属され、都市ごみ焼却施設向け焼却炉・ボイラ及びバイオマス発電施設向け内部循環流動床ボイラの設計に従事し、2009年に社名が荏原環境プラント株式会社に変更され、現在に至る。腐食防食学会での受賞歴はありません。

野口 学君は、1996年3月北海道大学大学院金属工学専攻博士課程終了後、1996年4月、株式会社荏原製作所に入社し、荏原総合研究所に配属。廃棄物・バイオマス発電プラント向け耐高温耐食性材料の評価および開発に従事。2009年荏原製作所に異動、2017年に同社技術研究開発統括部に異動し、現在に至る。2004年技術賞受賞、2014年～15年本会理事(庶務)、2017年～18年出版委員会委員長を歴任。2021年腐食防食専門士認定。

林 重成君は、平成6年3月北海道大学大学院工学研究科金属工学専攻修士課程修了。平成14年12月博士(工学)取得(北海道大学)。平成6年4月～9年3月まで新日本製鐵株式会社君津製鉄所厚板熱延部、平成11年10月北海道大学大学院工学研究科助手、平成14年6月から平成16年3月までアイオワ州立大学にて博士研究員、平成19年4月北海道大学大学院工学研究科准教授、平成26年4月～28年3月東京工業大学大学院理工学研究科准教授を経て、その後、令和3年11月北海道大学大学院工学研究院教授、現在に至る。主に耐熱合金の高温酸化・腐食に関する研究に従事。

【選考理由】

本技術成果は、表面に凹凸を有する独創的な概念で優れた耐エロージョン・コロージョン特性を有する合金を開発し、実機での実用化を開始したことの業績である。既に複数のプラントで導入が進められるほど工業的な意義は高く、かつその独創性より技術の発展性が期待される。実用化に到達できていることから、今後産業界への発展、普及がさらに期待できる技術である。今後の学会活動においても、産業界への貢献においても、大いに反映される成果であり、技術賞に値すると判断し受賞対象とした。

<技術賞②>

JIS Z 2384「大気腐食モニタリングセンサ」の原案作成と制定

金森英夫(埼玉工業大学) 中津美智代(福井県工業技術センター)
 高谷泰之(トーカロ株式会社) 鈴木智康(株式会社シュリンクス)
 田原 晃(公益社団法人腐食防食学会) 市場幹之(東京電力ホールディングス株式会社)
 兒島洋一(株式会社 UACJ) 押川 渡(琉球大学)



金森英夫



中津美智代



高谷泰之



鈴木智康



田原 晃



市場幹之



兒島洋一



押川 渡

【略歴】

金森英夫 1973年(昭和48年)3月青山学院大学理工学部物理学科卒業, 同年4月出光興産株式会社 営業研究所, 2003年加工油グループGL, 2009年同上営業研究所所長, 2012年退職, 2012年埼玉工業大学非常勤講師, 客員教授, 2021年非常勤講師退任, 2020年同大にて工学博士号取得, 2003年腐食センター運営委員, 2021年センター長。

中津美智代 1988年福井大学大学院工学研究科修士課程修了, 同年4月福井県 化学職採用, 福井県工業技術センターに配属。1998年東京大学大学院工学研究科 受託研究員, 2006年(独)物質・材料研究機構 外来研究員を経て, ステンレス鋼のすきま腐食研究や産業界の腐食・防食課題の技術対応に従事。2007年10月福井大学大学院工学研究科博士課程修了。2018年福井県産業労働部新産業創出課 参事を経て, 現在に至る。2018年, 本会 腐食防食専門士を取得。

高谷泰之 1972年3月徳島大学大学院工学研究科応用化学専攻修了後, 1972年4月兵庫県立工業試験場(現兵庫県立工業技術センター)に入社し, コンクリート中におけるアルミニウム合金の腐食, 各種溶射皮膜の耐食性評価に関する研究に従事し, 2009年3月工業技術センターを退職後, トーカロ(株)溶射技術開発研究所技術顧問となり, 現在に至る。工学博士(京都大学), 腐食防食専門士。

鈴木智康 1995年に株式会社シュリンクスを設立。計測器用のソフトウェア開発を手掛ける。その後, 電気化学装置の設計・開発, 腐食センサの研究・開発に従事し, 現在に至る。多摩美術大学情報デザイン科講師を歴任。ACMセンサ関連では, 2000年東京大学の開発したExcel版ACM解析ソフトをWindowsに移植。本会, ACM型腐食センサ実用化研究会を経て大気腐食分科会の幹事としてACMセンサ検定法策定に携わる。また自動車分科会ではACMセンサを用いた自動車腐食環境を定量的に測定する方法の研究をおこなっている。

田原 晃 昭和55年3月九州大学大学院工学研究科修士課程修了, 同年4月より九州大学工学部鉄鋼冶金学科で助手として勤務, 平成3年4月科学技術庁金属材料技術研究所 主任研究官に移動し, 平成13年金材技研から独立行政法人(独法)物質・材料研究機構へ組織変更, さらに平成27年独法から国立研究開発法人へ組織変更の後, 平成28年12月末同法人を退職。翌年1月より(公社)腐食防食学会 事務局勤務, 同年3月事務局長へ就任し, 現在に至る。平成3年日本鋳物協会 論文賞, 平成26年スガウエザリング技術振興財団 特別技術功績賞を受賞。平成18~19年及び平成26~27年理事, 平成20~21年出版委員会委員長, 平成28年材料と環境2016実行委員長に就任。

市場幹之 1986年3月早稲田大学理工学研究科材料理工学専攻 修士課程卒業, 同年4月日本鋼管株式会社 中央研究所 入社, 2004年1月東京電力株式会社 技術開発研究所入社 現 首席研究員。電力設備の腐食防食対策の研究に従事し現在に至る。博士(工学)。本会で理事, 技術委員長を歴任, 2016年技術功労賞を受賞。

兒島洋一 1986年3月東京大学工学部金属工学科卒業後, 同年4月日新製鋼株式会社に入社し, 新材料研究所へ

配属され、粉末の表面処理に関する研究開発に従事。1989年4月東京大学大学院工学研究科金属材料学専攻に進学、同年12月同助手に採用され、腐食防食の研究に従事。2005年4月古河スカイ株式会社に入社し、技術研究所においてアルミニウム合金の腐食防食、表面処理に関する研究開発に従事。2013年10月から古河スカイと住友軽金属との統合により株式会社UACJ R&Dセンターに所属し、現在に至る。1999年腐食防食協会進歩賞を受賞、2018年～2019年中部支部長、2020年理事。

押川 渡 平成2年3月琉球大学大学院工学研究科機械工学専攻修了。平成17年4月博士(工学)取得(東京大学)。職歴は、平成2年4月琉球大学工学部エネルギー機械工学科助手、平成5年10月同機械システム工学科助手(学部改組)、平成17年7月同助教授、准教授を経て、平成28年8月教授、平成29年4月同工学科エネルギー環境工学コース教授(学部改組)、現在に至る。大学に勤務して以来、一貫して大気環境中における鋼材の腐食防食の研究に従事。この間、平成4年東京大学工学部に内地研修。本会では、平成17年論文賞受賞、令和2年学術功労賞受賞。沖縄支部長を務める。

【選考理由】

本技術成果は、腐食防食学会として初となるJIS原案作成を行い、JIS Z 2384「大気腐食モニタリングセンサ」の制定を完了したことの業績である。改定とは異なり原案作成から制定までの実現への困難さを考慮すると、本技術における優れた業績は際立ったものといえる。本会を中心に蓄積したACMデータの継承や互換性が担保され、検定業務を通じ学会の収益にも貢献している。今後の学会活動に対しても啓蒙的な役割を果たせる成果であり、技術賞に値すると判断し受賞対象とした。

<進歩賞>

鉄鋼材料の大気腐食解析への電気抵抗法の適用

面田真孝(JFEスチール株式会社)



面田真孝

【略歴】

面田真孝君は2008年3月早稲田大学理工学術院環境資源及物質材料理工学専攻修士課程を修了し、同年4月JFEスチール株式会社に入社。スチール研究所耐食・防食研究部に配属、造船用耐食鋼に関する研究に従事した。2012年4月より界面科学研究部に異動、鉄鋼材料の大気腐食の基礎研究に従事。この間、2021年3月に東北大学大学院工学研究科知能デバイス材料学専攻博士課程を修了し、現在に至る。本会では、2016～2017年度に材料と環境編集員、2017年度～関東支部幹事を務める。

【選考理由】

面田真孝君は、電気抵抗法を用いた連続測定により、温度、溶存酸素量および飛来塩分量が鉄鋼材料の腐食量に与える影響を非破壊で精度よく測定する事に成功し、その結果から鉄鋼材料の大気腐食速度の環境要因依存性を明らかにしている。また、長期的な腐食量のモニタリングにも適用可能である事も実証している。

これらの成果は、腐食防食学会の「材料と環境」誌および講演大会において発表されており、本会への学術的貢献は大きく、今後の腐食防食学会を担う人材としてその活躍が大いに期待される。これらの業績は、進歩賞の授与にふさわしいものと判断し、進歩賞選考委員会の全員一致でここに推薦する。

<功績賞>



磯本良則

【略歴】

磯本良則君は1978年3月広島大学工学部化学工学科卒業後、1986年6月東京工業大学工学博士取得、1988年5月から2年間英国ケンブリッジ大学材料科学・金属学科客員研究員として留学した。1980年から3年間株式会社松田ポンプ製作所に勤務、1983年5月から広島大学工学部助手、大学院工学研究科助教授、准教授として、2019年3月に広島大学を退職した。一貫してエロージョンおよびエロージョンコロージョンに関する研究に従事し、2019年6月から広島大学デジタルものづくり教育研究センターの特任准教授、現在に至る。1988年5月に腐食防食協会進歩賞、1989年に同協会論文賞、2018年に同学会技術賞を受賞。編集委員2002、2009、2011、2014年の四期、理事1997、2007年の二期、評議員1999、2005、2009年の三期、監事2014年の一期、中国・四国支部長2012年の一期、2014年第61回材料と環境討論会実行委員長を歴任した。



松橋 亮

【略歴】

松橋 亮君は、昭和58年3月東京理科大学理学部Ⅱ部化学科卒業、平成9年3月東京大学にて学位取得(工学)。昭和49年4月新日本製鐵株式会社(現、新日鐵住金株式会社)入社、基礎研究所、第二技術研究所、技術開発本部鉄鋼研究所を経て、現在は日鉄住金テクノロジー株式会社に移籍し主としてステンレス鋼の腐食・防食・耐食性の研究に没頭し現在に至る。平成2年5月、腐食防食協会進歩賞受賞、平成22年5月、同協会技術賞受賞。

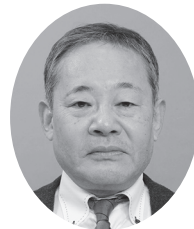
<貢献賞>



廖 金孫



紀平 寛



栗木良郎

【略歴】

廖 金孫君は、1987年7月(北京)清華大学溶接工学専攻卒業、1990年3月天津大学大学院溶接工学専攻修士課程修了後、1992年10月に大阪大学溶接工学研究所(現、接合科学研究所)に入学し、1995年10月に工学博士号を取得後、1996年4月に株式会社栗本鐵工所に入社し、当時の鉄構事業部へ配属され、鋼構造物の生産技術の開発、ステンレス鋼溶接部の微生物腐食の研究、橋梁鋼製箱桁の防食技術の開発など、研究開発業務に従事してきた。その後、技術開発室へ異動し、高性能マグネシウム合金とその防食技術の開発を行い、現在、研究開発のマネジメントに注力。本会では、理事(2006.4-2008.3)及び評議員(2008.4-2010.3)を務めた。

紀平 寛君は、1983年3月に東京工業大学大学院理工学研究科金属工学専攻を修了し、同年4月、日本製鐵株式会社(往名:新日本製鐵株式会社)に入社。以来、企業研究者として各種の鋼やチタンの腐食に関わる研究開発に従事。1992年5月に米国留学先 Clarkson 大学から Ph.D. ほか、NACE International から A. B. Campbell Award, ASTM から Sam Tour Award, 新技術開発財団から市村産業賞・貢献賞、日本金属学会から物性部門・論文賞、土木学会から田中賞(論文部門)、経済産業省からものづくり日本大賞・優秀賞、などを授与された。教育貢献としては、2008年5月～2020年3月の横浜国立大学客員教授のほか、東京工業大学、北海道大学、早稲田大学、学習院大学にて非常勤講師や招聘講師を務めた。定年・移籍後の2012年7月～2014年12月は、日鉄防蝕株式会社にて各種防食技術の研究開発に従事。2015年1月～現在は、日鉄総研株式会社にて、顧客依頼の多様な課題に関わる世界動向の分析・調査や、各種相談・支援業務に従事している。本会会員としては、2004～05年度と2009～10年度に理事(会計)就任。会計統合化とERM手法の導入、公益法人法改正に適應すべく学会経営の進化・盤石化に繋がる諸施策の導入、などに尽力した。そのほか、さびサイエンス研究会の幹事や、「やさしい金属腐食の本」の企画委員会・主査など、成果や手段

の具現化にも貢献した。

栗木良郎君は1983年3月東京工業大学材料科学専攻修士課程修了。同年4月日本鋼管株式会社(現JFEスチール)に入社し、中央研究所に配属。高耐食性油井管、ラインパイプ鋼の開発に従事。1986年から1988年日本原子力研究所(現日本原子力開発機構)に出向。2011年4月日揮株式会社に入社。プラント機器の材料選定、腐食問題解決に従事。本会では2006年～2008年に研究事業委員長、2009年～2010年に理事を担当。2009年に腐食防食専門士に認定。